

『ダンボールで生ごみ堆肥づくり研修会』開催

町では循環型社会を形成するため一般廃棄物対策における3Rの取り組みを推進しています。

ごみの減量化・再利用に向けた環境学習として「ダンボールで生ごみ堆肥づくり研修会」を開催しました。

- 日 時 平成23年1月26日(水)
午後1時～
- 場 所 上富良野町公民館第1研修室
- 参加者 23名
- 講 師 循環ネットワーク北海道
運営委員 木村 雅治氏



上富良野町の各家庭から出される生ごみは、H21年度は約652トンで、町全体のごみ量(3,290トン)の約2割を占めています。この生ごみは富良野市にある富良野広域連合環境衛生センターに運ばれ、バーク(樹木の皮)と混合して発酵処理を行い堆肥化されています。(※堆肥は販売されています。)

この生ごみは、家庭においても身近な材料(ダンボール箱)を使い、ちょっと手間をかけることで堆肥を作ることができます。

今回、自ら実践している木村さんから、ダンボール箱の実物やスライドを使いながら、自らの体験談も交えわかりやすく講義を行っていただきました。

ダンボール箱生ごみ堆肥化の流れ

◆用意するもの◆

- ダンボール箱(堆肥化容器)2箱・・・10kgのみかん箱くらいの大きさ
- 基材(初めに入れておく微生物のすみか)・・・ピートモス、もみがらくん炭を半々に混ぜたもの15kg
- 箱をのせる台・・・角材(5-10cm×35cm、2本)、木片など。べた置きすると通気性が悪く、箱が壊れたり、床を傷めることもある。
- かくはん用の道具・・・しよもじ、へら、ショベル、厚手のゴム手袋など
- 棒状の温度計(100℃計)があれば



◆なぜ、ダンボール箱なのか？◆

- 水蒸気を通す
 - 空気を通す
 - 保温性に優れている
- お勧めは、みかん箱（中芯が2層、強度・耐久性あり）



◆はじめよう◆

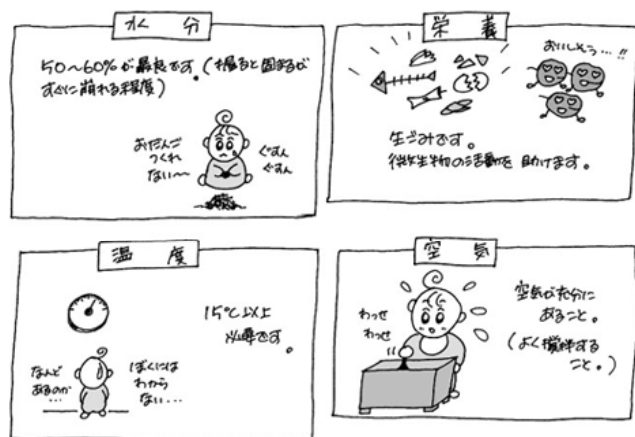
○ダンボール箱に基材を入れる。乾燥している場合は水分を調整。

○置き場所は 15℃以上の環境の場所。

（室内が望ましい）通気性を良く。
雨・雪対策ができればベランダなどの屋外でも良い。

○生ごみを入れる（新しいうちに小さく切って）。よくかき混ぜる。フタをする。水分と温度管理（微生物の活動）。

○ダンボール箱が使えなくなったとき（一般的に 3-6 ヶ月）に生ごみの投入を止め、2 ヶ月程度寝かせて畑へ



詳しくは・・・

木村さんが参加する

「循環（くるくる）ネットワーク北海道」のホームページを！

<http://www.kuru-kuru.org/>

※循環（くるくる）ネットワーク北海道とは？

1995年に設立（事務所：札幌市民活動サポートセンター内）。北海道のすぐれた自然を保全し、より良い環境を次の世代に引き継ぐため、廃棄物の減量化と資源の有効利用を図り、循環型社会の形成に向けた幅広い活動を行っています。機関紙発行、ホームページなどの情報提供、学習会やシンポジウムなどの普及啓発、生ごみなどの部会活動が行われています。